



CT

2026年5月17日(日)
12:35 - 13:25第2会場
東京慈恵会医科大学
大学1号館5階講堂

画像診断の進化



座長 中野 匡 先生 (東京慈恵会医科大学) | 座長のことば

近年、各種の構造 / 機能の検査機器の進歩に伴い、緑内障の早期診断の精度は向上してきています。香港大学の Christopher Leung 先生より Retinal Nerve Fiber Layer Optical Texture Analysis (ROTA) のアルゴリズムが発表され、緑内障専門の先生方の中にはご存じのかたも多いのではないのでしょうか。この技術の特徴は、視神経繊維層の欠損がスキャン範囲全域のなかで明瞭に可視化されること、またその欠損がより早期にサインとして現れることが注目のポイントです。本セミナーでは2人のエキスパートの先生より、ROTA アルゴリズムを臨床に生かす知見をご共有頂きます。まず西田先生には ROTA アルゴリズムの総括、三木先生には ROTA データと視野計データを複合した新しい緑内障ダッシュボードについて共有頂きます。構造と機能における緑内障診療に関する最新知見をお伺いできることと期待しています。多くの先生方のご参加を心よりお待ちしております。

演者



西田 崇 先生

ZOOM 参加

カリフォルニア大学 サンディエゴ校眼科

演者



三木 篤也 先生

愛知医科大学医学部眼科学 特任教授
眼科クリニック MiRAI クリニック長RNFL 光学的テクスチャ解析 (ROTA) による
緑内障早期発見と臨床での使いどころ構造 / 機能のよりよい診断に貢献する新ツール
緑内障ダッシュボードとは？第15回日本視野画像学会学術集会への参加には、参加登録が必要です。
2026年4月13日(月)まで、早期割引を実施しております。